

# ☆空間を感じさせる構図を工夫しよう！！

構図とは…

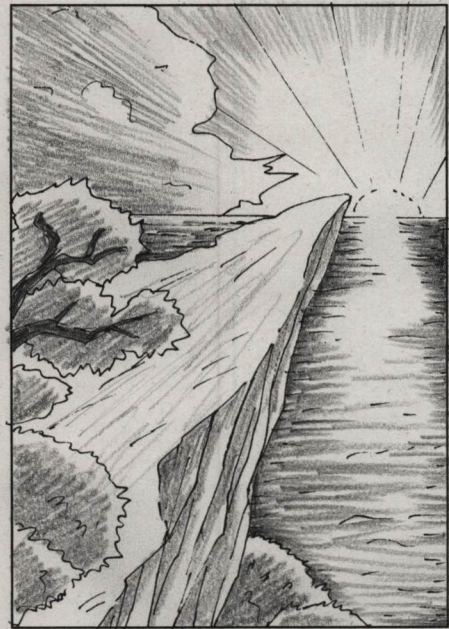
画面のどの位置にどんな大きさで自分が描きたいものを配置するか。その位置関係や大きさのバランスで絵に空間感（遠近感や空間の広さ）が出たり、作品を鑑賞する人に自分が伝えたい思いが伝わりやすくなります。

構図は、いくつかのポイントを押さえることで工夫できるので、自分が表現したい思い・見る人に伝えたい思いなどを考えながら、工夫してみよう。

## ① 画面の向き

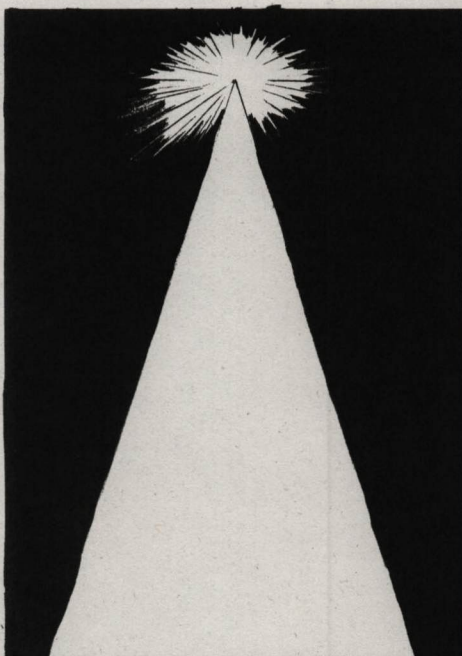


横長の画面は、  
・空間の広さを表現しやすい



縦長の画面は、  
・手前から奥までの距離（奥行き）を感じやすい  
・高さを表現しやすい

## ② 線の使い方



直線の線を使った構図



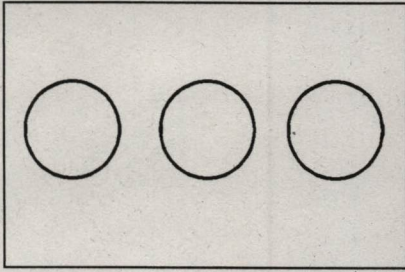
曲線の線を使った構図

線とは、道や川、水や空気の流れなどの線（ライン）状のモチーフ。

点（物体のモチーフ）と点をつないで絵の中に視線の流れを作り空間を構成したり、太さによって遠近感を出したりすることができる。

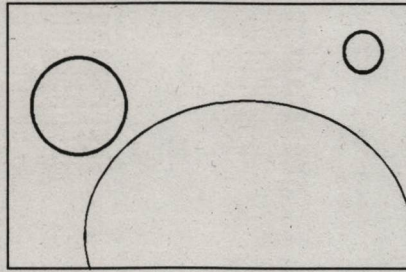
また、直線と曲線では鑑賞者が受ける印象が変わる。

### ③ ものの大きさと配置



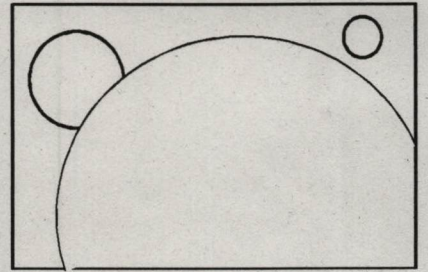
BUT!

すべての丸の大きさが同じで、しかも配置も横並びになっている。



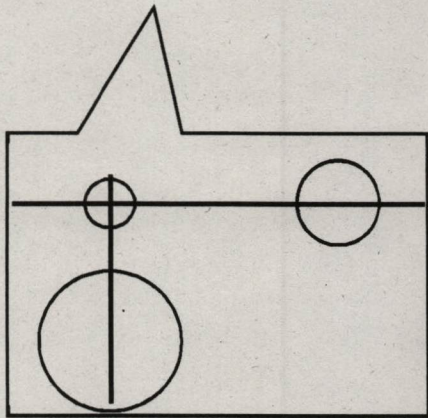
GOOD!

丸の大きさを変えることで、大きい丸は近く小さい丸は遠くに見え、遠近感が生まれる。配置も左右上下にずらしている。

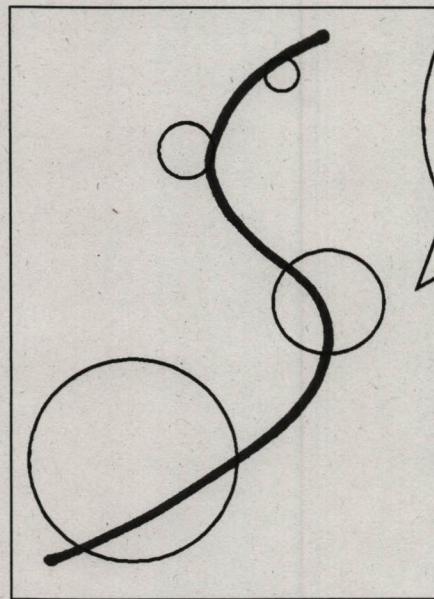


さらに一工夫!

丸同士を重ねることで、より前にあるもの、後ろにあるものの位置がわかりやすくなる。



この構図のように、ものが縦横の画面の線と並行して並んでいるときゆうくつな印象になる。



S字やU字を意識すると空間が出しやすい。

### ④ 視線を導く工夫

②と③で説明した線状のモチーフと点状(もの)のモチーフを組み合わせると広さや遠近感といった空間の広さを感じる構図が出来上がります。

構図については、資料集の16ページにさらにいろいろな工夫が載っているよ。  
自分の思いが伝わる構図にこだわってみよう!

